

高齢者の居場所づくり サポートします

平成30年度までに100カ所

市は、高齢者の社会参加や生きがいづくり、介護予防の促進を図るため、2年間で100カ所の居場所づくりを目指し、活動を支援します。活動団体の登録は8月21日から受け付け。活動場所の改修や備品購入などの費用を補助します。

☎地域包括ケア推進課 ☎841・1458、☎844・0315



進む「高齢化」 支え合い助け合う 活動を支援

日本は4人に1人が65歳以上の「超高齢社会」と言われ、高齢者の閉じこもりや孤独死などが社会的課題になっています。今後も高齢化が進みます。今後も高齢化が進むと考えられ、新たな取り組みが必要となつていきます。今回の新たな事業は、高齢者が地域の中で人とつながるために、お互いが支え合い、助け合いながら「やりがいや満足感」を得ることができる活動を支援するものです。

活動を登録しませんか
最大20万円の補助も

登録

市役所別館2階地域包括ケア推進課にある申込書兼同意書を8月21日から同課へ。登録後、市ホームページで活動場所や内容・連絡先等を公開します。

◆登録条件

- ① 1回当たりおおむね90分の自主的な活動を月2回以上実施する
- ② 同一場所で3年以上継続して活動を行う意思がある
- ③ 市内在住の65歳以上の高齢者5人以上の参加が見込める
- ④ 活動スペースは12㎡以上ある
- ⑤ 参加費は無料（飲食代や材料費等の実費を除く）
- ⑥ 特定の者に参加を限定してはいない
- ⑦ 介護予防に役立つ活

高齢者の居場所づくりのため、住民のアイデアを生かしたさまざまな活動が行われています。

「かき氷おいしい！」

労住まきのハイツ「かけはし」

「市駅前って昔、百貨店が2つあったやん」「そうそう、にぎわってた。懐かしいね」。天井一面に広がる藤棚が印象的な労住まきのハイツ集会所横の藤棚で、70代の男性2人が昔話に花を咲かせます。同ハイツでは平成12年、住民ボランティアによる「かけはし」が発足。映画や体操などのイベントや困り事相談のほか、毎週火曜と木曜の午前中にはコーヒーやモーニングセットが低価格で味わえるプチカフェを運営しています。

約40人が参加した6月27日はかき氷が登場。「冷たくておいしい」と宇治金時味やイチゴミルク味などを楽しんでいました。西田彌八郎さん（79歳）は「マンションの運営についてなど意見交換もできるのでほぼ毎回来ています」と話しました。



代表 立石 裕穂さん(77歳)

労住まきのハイツは380戸ありますが、約4割が65歳以上という、まさに超高齢社会そのもの。カフェでは近隣の人の姿が

見えなくて心配なとき、「入院した」などの情報を得て安否の確認ができることもあります。一人でも多くの高齢者が参加できるような場所にと、閉じこもりや孤独死を減らすことができます。

「おじいちゃん一緒に行くつよ」

世代を越えて集えるチカラのみせ処「宮ノサポ」

宮之阪中央商店街の空き店舗を利用した「宮ノサポ」は、世代間交流ができる場を作ろうと、同商店街が関西外国語大学ボランティアクラブの学生や地域包括支援センター、北河内若者サポーターズチームなど協力呼びかけ、昨年2月にオープンしました。

同商店街では、商店街で使える共通通貨を活用して困ったことがあるときに手伝ってくれる商店街サポーター登録制度があります。宮ノサポの中には「囲碁・将棋の相手します！500サポ」・庭のお手入れのお手伝い、200サポ」などを書いた紙が貼られた掲示板があり、ちよつとした困り事をサポートする「ちよいサポ事業」



のほか「こども食堂」、「カフェ」など、さまざまな活動を行っています。常連客の富上博儀さん（69歳）は明倫小4年生で孫の色葉さんと訪れ「孫に誘われて外に出ることが増えました。外出することで体も動かすことができ、健康にもつながっていると嬉しいです」とケーキを食べながら話しました。

動（ひらかた元気づけらわんか体操など）を取り入れる

⑧利用者数などを年1回市へ報告する

補助金

1カ所につき最大20万円（1回限り）。ただし営業中の店舗、介護保険施設等は最大10万円。場所の例は自治会館や集会所、個人の住宅や事業所の空きスペースなど。

◆対象経費

手すりの設置等の改修費、居場所の運営に必要な備品購入（滑り止めマット、エアコン）、実施スペース内での介護予防活動上に必要な介護予防用品、囲碁などのレクリエーション用品。

※詳細は市ホームページや地域包括ケア推進課にある手引き参照。